

(一財)長崎県剣道連盟

広報誌 第27号

剣道だより (KENDO Nagasaki)



年頭の挨拶

(一財)長崎県剣道連盟 会長 灰谷達明

長崎県剣道連盟の会員皆様におかれましては、陽光に恵まれ清々しい2023年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

但し、国の内外における障壁はなかなか難しく、依然としてコロナ禍は終息を見せず、ロシアによるウクライナ侵攻の悲劇は継続し多くの人命が奪われている現実がございます。

厳しい時代の中で新たに発足した今期の長崎県剣道連盟ですが、会員全てが問題を共有しながら立ち向かっていきましょう。

私自身は、武道人口の減少に対して、まずは現実を直視すること、可能な限り各種大会・研修会・錬成会・稽古会等に参加して現実に学びたいと念じております。基本錬成会では少年少女の熱意に溢れた真剣な眼差しに大きな勇気を頂きました。

また、各種大会における活躍は、刮目(かつもく)に値するものでした。

島原高校男子団体インターハイ優勝、佐世保高専の全国高専大会準優勝、長崎南山学園や少年剣士の活躍等々。更に、全日本選手権には本県出身者が4名(松尾・林田・草野・松崎)出場し、全て1回戦突破、女子では岩本選手が優秀選手に選出されましたが、いずれも見事な立合いでした。八段審査では島田貴文先生(県警)が見事難関を突破し明るい話題を提供してくれました。

居合道部や杖道部の地道な活動も見逃せません。光明を感じることも多々ございました。

伝統文化を学び、生涯修行することに勝る喜びがありませんか。今年も皆様と共に卯の年を飛翔しましょう。



年頭のご挨拶(杖道) (一財)長崎県剣道連盟 杖道部長 橋本幸一

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今年も恒例の新春初稽古を、令和5年1月2日雲仙市の橘神社境内におきまして開催しました。当日は、好天にも恵まれ初詣の参拝者も昨年と比べたら随分と多く以前の賑わいを彷彿させるものでした。令和2年よりコロナの影響で杖道も大会等主な行事が出来ず残念な年月を過ごして参りました。今年は重点目標として女性並びに少年層への普及拡大を図って参りたいと考えています。

長崎県剣道連盟杖道部では『杖道』を通して社会に貢献することを目的に、社会のあらゆる場で我が国の伝統文化である武道を通じて社会人としての豊かな人間形成を目指すものであります。

コロナの感染拡大につきましては、今後の状況はまだまだ見通せませんが一日も早い収束を願いたいと思っています。

結びに、令和5年が皆様にとりまして実り多き年になりますよう心よりお祈り申し上げます。今後とも杖道部へのご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



年頭のご挨拶(居合道) (一財)長崎県剣道連盟 居合道部長 高木志伸

無常迅速なり (むじょうじんそく)

新しき年を迎え、皆様のご多幸とご清武を祈念いたします。長崎県剣道連盟居合道部は昨年一年間、居合道会員の団結、連携を強くできるような事業推進にあたってまいりました。これからも会員同士が共に学びあい「交剣友愛」の輪を広げたいと思います。

「無常迅速なり」、無常は、儚く虚しいばかりではありません。無常が臍(ほぞ)落ちたなら一刻一刻が澄み切って新鮮に観じられ、決して疎かにできなくなるでしょう。「一行三昧」皆様におきましては新年の感謝を以ってお過ごしになる日となりますことを祈念いたします。

居合道部では昨年、役員改選にあたり、新たに女性理事を3名任命しました。女性理事は女子居合道の普及、更なる発展を目指し、様々な情報収集や活動を目的としています。その結果、長崎県居合道部としては初めて団体戦の試合「長崎県居合演武大会」を実施することができました。また、長崎県剣道連盟剣道祭では紅白試合の中に居合道、杖道の試合にそれぞれ3組出場することができました。今年も昨年同様に若年層居合道の普及、更なる発展や、様々な情報収集や活動を目的し、魅力ある居合道部となることを期待しています。

新型コロナ感染オミクロン株第8波の感染拡大が続いております。まだまだ終息には難しい状況が続いていますが、居合道部では昨年の実績等を踏まえ、主催大会・審査会は、基本的に実施していく予定です。

今年度も全日本剣道連盟並びに県剣連とより深く連携をとり、居合道部の活動が剣道の理念に沿ったものになるよう努めていきたいと考えておりますので、会員皆様の暖かいご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。それでは皆様にとって、最良の年になりますように祈念申し上げます。



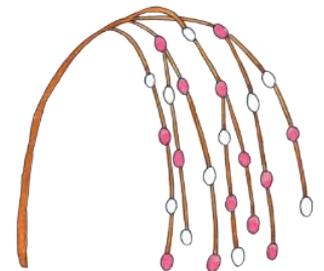
小正月湯舟に深く肩沈む(堤節子)・・・「小正月」1月15日

15日前後は年末や正月に忙しかった女性がやっと休める所で「女正月」ともいいます。旧暦の1月15日は新年最初の望月(満月)の日。

小正月飾りとして木の枝に紅白の餅花を飾り五穀豊穰を祈ります。またその昔、1月15日は男児の成人を祝う元服の日でもあり、それが今の「成人の日」になったといわれています。

小正月行事は、綱引きで豊漁や豊作を占い、農具や炊事道具などにお供え物をして感謝する「道具の年取り」、正月飾りや書初めなどを燃やす「火祭り(どんど焼き)」、鬼の面をつけ怠け者を戒める「なまはげ」など地域によってさまざまです。

正月飾りは、松の内まで飾るところもあれば、小正月まで飾るところもあります。俳人小林一茶は雪解けが始まり春の訪れを詠った俳句に「おらが世や そこの草も 餅になる」とあります。現代語訳すると「春ともなれば、そこら辺に生えている蓬(ヨモギ)の若草を摘んで、草餅にして食べよう。有難い世になったものだなあ」という意味です。雨水は寒い冬の時期には雪が降っていたところから、雪ではなく雨に変わり、降り積もった雪が解け始めて水に変わり、草木が芽を出し始めるなどの意味があります。また、農耕の準備を始める気候になってきたという目安にもされていました。



餅花(もちばな)

【小正月の食べ物】

小正月に食べるといいとされる伝統的な食べ物には煮た小豆を混ぜて炊いたお粥を食べる風習があります。これは「小豆粥」や「十五日粥」といわれ、新年の季語にもなっています。

「小豆粥」は“小豆のように赤い色の食べ物は邪気を祓う”と考えられていた中国の古い風習に由来しているのだそうです。

「枕草子」や「土佐日記」にも小豆粥についての記述があるほど、伝統的な食べ物です。これを食べて1年の無病息災を願いましょう。1月15日の朝に食べるのが良いとされ、また、お餅やカボチャを入れてみるのもおすすめです。小豆粥の代わりに「ぜんざい」を食べる地域もあります。小豆粥に鏡開きをした鏡餅を入れるという地域もあります。



小豆粥(あずきがゆ)

報告(1)・令和4年度(第24回)長崎県下剣道祭 結果

標記大会が令和4年12月25日(日)長崎県立総合体育館(サブアリーナ)にて開催されました。

日本剣道形試合の後、紅白試合(居合道、杖道、剣道)が行われました。なお演武・試合の開始に先立ち、全日本剣道連盟表彰ならびに剣道八段証書授与(島田貴文・県警)がありました。

県下剣道祭出場者全員が「和気藹々」の中にも真剣な眼差しで取り組みました。紅白試合の結果は紅軍(9勝8敗7分)が優勝しました。また、日本剣道形は佐世保剣道協会の中元史郎選手・田邊一也選手組が優勝しました。

形 試 合 (18名/9チーム)				優秀選手賞
	チーム名	打太刀	仕太刀	
優 勝	佐世保剣道協会	中元 史郎	田邊 一也	
二 位	大村市剣道協会	溝上 義隆	永岡 義定	
三 位	長崎市剣道協会	由井 克之	西岡 哲男	
三 位	官公連剣道部	尾崎 新	坂口 昇	

紅白対抗試合 (54名/2チーム)	
優 勝	紅軍 (9 勝 8 敗 7 引分)
二 位	白軍

居合道	作永 憲昭 (剣 心 館)
杖 道	打太刀:伊藤 享 (杖 道 会) 仕杖 :瀬川 真由美
剣道 紅軍	森川 紗那 (島原高校)
剣道 紅軍	山口 拓 (長崎南山高校)
剣道 白軍	山口 蘭花 (諫早亀舟館)
剣道 白軍	今里 尚武 (東彼地区剣道協会)



全日本剣道連盟表彰【剣道有功賞】
松尾博行 (前長崎県剣道連盟会長)



【剣道八段授与】 島田貴文(長崎県警)



【少年剣道教育奨励賞】
平山剣友会(長崎市)



【少年剣道教育奨励賞】
亀岳少年剣道クラブ(西彼地区)



【少年剣道教育奨励賞】
鈴田少年剣道クラブ(大村市)



【少年剣道教育奨励賞】
赤崎少年剣道クラブ(佐世保)



【紅白試合 優秀試合賞】
小畑享市 (県警)対 野副伸一郎(諫早市)



【紅白試合 剣道 優秀賞】
白軍 山口蘭花(諫早亀舟館)



【居合道優秀賞】【日本剣道形 優勝】
作永憲昭(居合道) 中元史郎・田邊一也(佐世保)

報告(2)・令和4年度第26回将龍杯高校剣道大会・優勝 長崎南山高校

標記大会が令和4年12月26日(月)大分県別府市において開催されました。全国及び九州各県より男子92校、女子72校が参加。長崎県からも多くの高校が参加しました。男子団体戦では、長崎南山高校が見事優勝しました。結果は以下のとおりです。

<p>【男子団体】 優勝 長崎南山高等学校(長崎県) 準優勝 自由ヶ丘高等学校(福岡県) 3位 東福岡高校(福岡県) 3位 西日本短期大学附属高校(福岡県) 5位 山口県鴻城高校(山口県) 5位 長崎日本大学高校(長崎県) 5位 明豊高校(大分県) 5位 純真高校(福岡県)</p>	<p>【男子団体】 【決勝戦】 ○長崎南山3-0自由が丘(福岡)× 【準決勝戦】 ○長崎南山4-0東福岡(福岡)× 【準々決勝戦】 ○長崎南山2-1山口鴻城(山口)× 【3回戦】 ○長崎南山1-0四天王寺東(大阪)× 【2回戦】 ○長崎南山3-0愛真(福岡)×</p>	 <p style="text-align: center;">男子団体優勝 長崎南山高校</p>
---	--	--

報告(3)・第26回大牟田市剣道連盟会長旗争奪剣道大会・優勝 長崎南山高校

標記大会が令和4年12月27日(火)福岡県大牟田市において開催されました。男子47校、女子33校が参加。長崎県からも多くの高校が参加しました。男子団体戦では長崎南山高校が決勝で宮崎日大(宮崎)を5-0で下し、優勝しました。

<p>【男子団体】 優勝 長崎南山高等学校(長崎県) 準優勝 宮崎日大高校(宮崎) 3位 福翔高校(福岡) 3位 文徳高校(熊本)</p> <p>【女子団体】 優勝 福翔高校(福岡) 準優勝 専大玉名高校(熊本) 3位 熊本商業高校(熊本) 3位 筑紫丘高校(福岡)</p>	<p>【男子団体】 【決勝戦】 ○長崎南山5-0宮崎日大(宮崎)× 【準決勝戦】 ○長崎南山4-0福翔(福岡)× 【準々決勝戦】 ○長崎南山2-1東福岡(福岡)× 【予選Bリーグ 4校リーグ1位通過】 【予選Bリーグ】 ○長崎南山2-0鞍手(福岡)× ○長崎南山3-0春日(福岡)× ○長崎南山5-0大牟田(福岡)×</p>	 <p style="text-align: center;">男子団体優勝 長崎南山高校</p>
--	---	---

報告(4)・第39回若潮杯争奪武道大会2022・剣道(千葉)・3位 島原高校(女子)

標記大会が令和4年12月26日(月)千葉県勝浦市国際武道大学第1体育館にて開催されました。全国から選抜された男子、女子各24校が参加。長崎県からは島原高校男女が参加しました。女子団体戦において島原高校が3位入賞。島原高校は準決勝戦で東奥義塾(青森)に0-0の代表戦で惜敗しました。また、島原男子団体はベスト8でした。

<p>【男子団体】 優勝 佐野日大高校(栃木) 2位 本庄第一高校(埼玉) 3位 九州学院高校(熊本) 3位 育英高校(兵庫)</p> <p>【女子】 優勝 筑紫台高校(福岡) 2位 東奥義塾高校(青森) 3位 島原高校(長崎) 3位 奈良大付属高校(奈良)</p> <p>【女子準決勝戦】 ×島原0-0東奥義塾(青森)○代表戦</p> <p>【準々決勝戦】 ○島原1-1守谷(千葉)×代表戦</p>	 <p style="text-align: center;">準々決勝戦 代表戦 寺川(島原)が村田(守谷)にメンを決める (写真：剣道情報総合サイト LET'S KENDO より)</p>	 <p style="text-align: center;">女子団体3位 島原高校 女子</p>
--	---	--

読み物(1)・杖道との出会い「杖道四段に合格して」

「杖道との出会い」

私はドイツ出身のマラ・クラウディアと申します。杖道について私の考えを述べる前に、次の会話をお聞き下さい。杖道の皆様、この会話はお馴染みのものでしょうか：「あなたは何をしていますか?」、「杖道です」、「柔道?」、「いいえ、柔道ではありません、杖道です。杖の道。」、「え? それは何ですか?」

400年以上の歴史を持つ杖道は日本の内外でもほとんど知られていません。それは驚くべきことではありませんか? 私も認めなければいけません、練習を始める前に杖道についてはあまり聞いた事はありませんでした。それは6年前でした。私はまだまだ初心者の身分で答えられるよりも多くの疑問がありますが皆様のご支援のお陰で先月、福岡で四段審査に合格しました。皆様に心から大変感謝しています。

小学生の時に私はドイツの故郷のクレーフェルト市で偶然、柔道の道場を見つけて習い始めました。数年後松濤館空手も始めて、やがて大学生になった時に剣道の修行も始めました。それからはや50年間に日本の武道は私の人生の重要な一部になりました。武道のお陰で日本語、日本文化と歴史を勉強始め、こうした日本学研究は職業にもなりました。

ドイツのボーフム大学でドイツ文学と日本の哲学と思想史を研究して卒業後、私の日本語の能力を向上させるために東京で生活しました。ドイツ語を教える一方で自由時間を全て剣道道場で過ごしました。

新宿剣道連盟の皆様からはじめて、お名前をここで挙挙することができないほどお世話になった多くの剣道の先生方と先輩方に非常に感謝しています。彼らは辛抱強く私の無限の質問を答えてくれたり、下手な技を修正したり、本当に良い友人になりました。

その後ドイツの大学に戻る為東京を離れなければならませんでした。しかし帰国後に日本へのホームシックが強く長崎外国語大学の教員に採用されました。現在は長崎外国語大学の教授として勤務しています。

当然、私は長崎に住み始めた時に長崎でも最初に道場を探しました。防具屋さんの多比良始郎様に助けていただいて、剣道の先生を紹介されました。すぐに再び毎日の剣道の稽古ができました。しかし私の長年の激しい柔道、空手、そして剣道の稽古で両膝の怪我が悪化しました。そのため正座、蹲踞と踏み込みも不可能になりました。私は納得できる稽古ができずやむを得ず剣道の稽古を断念しなければならませんでした。その時はとても不幸に感じて剣道の稽古ができる夫、下里亘を羨ましく感じました。

そうしたへこんだ私に、再び防具屋さんの多比良様が助けてくれました。今度は杖道の道場を案内してくれました。梟八幡道場では、健康上の理由で練習している多くの坂上勝宗先生の患者さんが集まっています。身体が不自由な方やご年配の方でも稽古ができるのです。私は武道未経験で八十代の初心者の方との出会いにもびっくりしました! だから、膝の問題にもかかわらず杖道は私にも合うかもしれないと思ったのです。

次の驚きは杖の練習でした。長さの128cmで、刀や木刀よりも長くて、幅広い技が可能です。新しい、慣れてない体捌きも経験しました。剣道と違い両面で行う技が多いため、一方的に体に負担がかからず、運動神経の悪い方や運動不足の方でもできる適度な運動です。

杖は杖道の中心ですが、刀/木刀の扱ひも欠かせません。ここでも、杖道でも剣道とは少し違うところがあるので、学ぶ事がたくさんあります。また杖の可能性とその影響を観察することは、剣を新しい光で示し新たな視点を示しています。

剣の打ちが正しくないと杖の反応が死んでしまいます。そして杖の範囲と動きの理解が無いと形のすべての動作は中途半端になり、本質的に無意味になります。

これまで私が会ったすべての先生方は、正しい剣の練習の重要性を強調してきました。しかし、杖道大会になると、仕杖だけがトロフィーを獲得しますが、剣道の形の大会では当然に両方に賞が与えられます…杖道の打太刀は残念ですね一何故でしょう?

形の稽古は杖道の中心です。全ての武道と同様に形も真剣に練習すれば、可能な限り「本物の戦い」に似ている必要性があります。攻撃は、杖の応答を誘因するのに十分なほど真剣でなければなりません。そして返しは攻撃の強さに見合ったものであれば、理合が発生します。観客にとって、これは乱取、組手、地稽古ほど壮観に見えないかもしれませんが、それでも形の演舞は、仕と打の真剣な相互作用の粋組みを提供します。つまり、形もまた、異なる2人の気のぶつかり合いの体験であり、緊張感と興奮をもたらすのです。

最後に、私にとって杖道のもうひとつの興味深い側面は、武器の違いとそれらの間合いと打つタイミングに与える影響です。柔道では通常、腕の長さは間合いの元です。空手では足の長さは間合いのベースです。剣道では距離は近間から遠間までの間合い異なりますが、双方が同じ長さを持っています。即ち、基本的刀本的に間合は剣の長さを基準にしています。

それと違って、128cmの長さの杖とこれより短い木刀を合わせると、適切な間合を取る事や正確なタイミングを実行することがさらに難しくなります。そして、それは古流で使用されている他の武器についても言及していません!

つまり奥深い杖道にはまだまだ面白い発見がたくさんあり、私はそれを楽しみにしています。とはいえ、長い歴史と豊かな伝統を持ち、実践の多くの課題と利点を持つ杖道はあまり知られていないのは何故なのか今でも疑問に思っています。自分は大学で留学生の中で人気のある杖道サークルを始めました。彼らは国に帰ったら向こうでも杖道の面白さについて紹介し、稽古を継続することを思っています。今後、杖道がより多くの修行者を惹きつけることを切に願っています。(長崎成杖会 マラ・クラウディア)



マラ・クラウディアさん

読み物(2)・・・剣豪「昭和の剣聖：井上正孝」(いのうえ まさたか) (現代剣道百家箴より)

井上正孝 (1907・明治40年～)

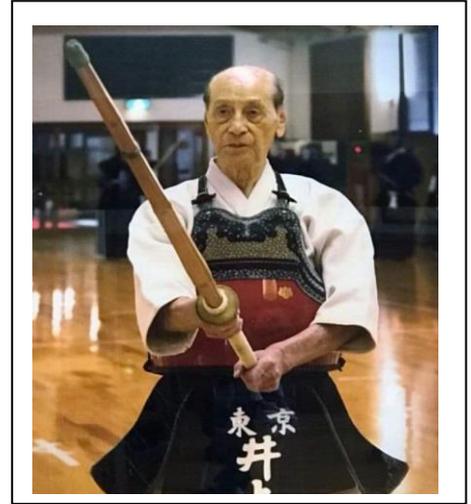
福岡県甘木市出身。剣道理念委員・全日本学校剣道連盟で活躍。剣道功労賞、剣道範士八段、居合道教士

美しい訓え

人間性と人格形成を養う

「形をやる以上、立派な稽古として身に着けて欲しいものです」
(戦前鍛練派座談会より)美しい訓え

確かな出典は知らないが「気は大納言の如く、身は足軽の如し」と言う言葉が、私は大好きである。そしてこれが私の貴い剣道の訓えでもあり、人生の美しい道標でもある。



気位は大納言の如く高く

気位は大納言の如く高く、豊かに持ち、身は足軽小者に比して忠実に、細心に 働けと言う訓えでもあろうか、数多い剣道訓の中に於いて、現代に生きる最も雅味ある箴言だと私は思う。

然し、大納言の品位、風格を身につける事は決して容易な事ではない。それは不断の修養と、精神的蓄積が無ければならないからである。更に身を足軽の低きに落して、表裏なく忠実に働くと言う事は、これ又一段と難しい事であろう。

真摯な態度と莞爾たる服従の実践

剣道は真摯な態度と莞爾たる服従の実践が伴わなければならないからである。剣道の立派さは洗練された美であり、研ぎ澄まされたその人の心の麗しさが、自然に流露したものでなければならない。換言すれば内に大納言の気概、気位が無ければ、外に大納言の品位、風格は絶対に表れるものではないと言う事である。そこに剣道修業の深遠さがあり、剣の醍醐味がある様に思われる。

気は大納言の如く高く、悠揚として迫らず、而も身は足軽小者にも比して、平易躬行の精神に徹する事は、言うべくしてなかなか到達し難い境地である。その容易ならざる至境に到達しようとする所に、日々の努力があり、精進があり、365日の修養があると思う。私はこの美しい訓えを「剣道と人生」の夢の道標として、遅く「我が道」を行きたいと念じている。



第34回京都大会 1986年 京都武道センター 井上正孝範士(79歳)対 太田義人範士(79歳)

【井上正孝 範士八段】

明治40年福岡県甘木市生まれ。朝倉中学(現朝倉高校)から東京高等師範学校に進む。東京高師時代は高野佐三郎範士に指導を受ける。高師卒業後は福岡の筑紫中学(現筑紫丘高校)や大阪の北野中学(現北野高校)の教員生活を経て、大阪府武道主事を拝命。その後は福岡市体育主事兼平和台総合運動場長、大阪市立医科大学学生課長、大阪市体育課長、大阪市立修道館長、東海大学教授(昭和51年退職)。現在は玉川大学剣道部名誉師範、全日本学校剣道連盟顧問。剣道範士、居合道教士。平成8年、全日本剣道連盟より剣道功労賞を受賞

報告(5)・令和4年度長崎県剣道連盟居合道部 古流研究会

標記研究会が令和4年11月27日(日)雲仙市立愛野小学校体育館において開催されました。参加者は初段1名、三段1名、四段2名、五段4名、六段2名、七段7名合計17名と少ない人数でしたが、とても有意義な研究会でした。居合道教士七段川辺一郎先生の講話があり、その後、夢想神伝流と無双直伝流に分かれ、各流派の古流の研究会がありました。

講習会最後には「無双直伝英信流」・「夢想神伝流」の演武披露があり、指定技は初伝より(受流/流刀)(月影/勢中刀)、中伝(自由2本)、奥伝(自由2本)でした。

【参加者感想】：参加人数は少なく残念でしたが、少ないなりに和気藹々と段位に関係無くできたのはとても良かったです。同じ流派でも色々な違いがあって大変勉強になりました。(居合道四段 M,K)



無双直伝流 大森流の演武



無双直伝流 立膝の部 演武

今回の居合道古流研究会では長崎県内に受け継がれた居合道の歴史や古流の「技前」と「所作」に(一財)長崎県剣道連盟居合道部の会員が実際にふれることで、古来より伝わってきた武道の素晴らしさや日本人としての心の大切さを学ぶことを目的としました。その中でも日本の伝統文化とも言える「もののふの心」、「日本の心」を実際にふれることで、古来より伝わってきた武道の素晴らしさを実感し、社会性と豊かな心を養い、さらに自国の文化を尊重し、居合道古流研究会の中で感じることと思います。その中で「日本の伝統文化を大切にす心や喜び」を実感していくと思われま

長崎県内に受け継がれた古流

神道無念流 (しんとうむねんりゅう)

【大村藩伝】

斎藤歎之助(斎藤弥九郎の三男)が嘉永4年(1851年)に大村藩に仕え、嘉永7年(1854年)に練兵館塾頭だった莊勇雄とともに江戸詰から大村に移ったことにより、一刀流、新陰流の稽古が廃止され、神道無念流に統一された。藩主大村純熙は歎之助の屋敷内に微神堂という道場を与え、微神堂から渡辺昇、柴江運八郎を輩出した。寺井知高は東京で中山博道にも師事し、(大村市)にて伝承されている。

夢想神伝流 (むそうしんでんりゅう)

大正時代に無双神伝英信流と無双直伝英信流を学んだ中山博道が、独自の工夫を加えて伝えた流派である。無双直伝英信流と並び現代居合道の母体となった。中山博道は、高弟や地位の高い人物に限って居合を教えたため、全伝を授かった門人は少ない。第二次大戦後、夢想神伝流は全日本剣道連盟居合の成立に強い影響を与え、無双直伝英信流と並び現代居合道の母体となった。現在は居合道界で最多の門人を擁している。

無双直伝英信流 (むそうじきでんえいしんりゅう)

江戸時代に長谷川英信が開いた武術の流派である。土佐および信州で継承された。長谷川英信流ともいわれる。土佐長谷川流、長谷川英信流、無双直伝流、無雙神傳流等さまざまな流派名が名乗られていた。

明治以降残った二派を大江正路の門人達は谷村派、下村派と呼んだ。谷村派は無双直伝英信流を、下村派は無双神伝英信流を称している。現在では土佐に伝わったもののみ残っており、別名土佐居合とよばれている。



居合道教士七段川辺一郎先生
夢想神伝流



故 宮崎勝次先生
神道無念流